

芳賀町の民話②

キツネを助けたお医者さん

むかしむかし、稲毛田に荷見玄同という腕の良いお医者さんがいました。

玄同さんは赤ん坊を取り上げるのが上手で、どんな難産でも玄同さんにかかると楽に産まれると評判でした。

ある夜のこと。「頼みます、頼みます」と言つて、トントんと戸をたたく者があります。玄関番が目を見まして、「何ですか」と聞くと「お産が始まったのですが、どうしても赤ん坊が出てこないのです。先生をお願いします」と答えます。

それを聞いた玄同さんは、「それはさぞお困りでしょう。すぐに行つてみてあげます」と支度をしました。外に出ると立派なカゴが待っていました。玄同さんが乗ると、カゴは飛ぶように走つて、あつという間にその家に着きました。

村には珍しい立派な家で、

玄関から座敷に通されると、中には家族が大勢いて、皆とても礼儀正しいのです。玄同さんは「これは普通の人の家ではあるまい」と驚きました。

その家の主人が飛んできて「先生、夜中にすみません。実は私の妻が夕方からお産が始まったのですが、なかなか難産で困っています。どうかみてくださ」と言いました。

玄同さんが奥の部屋に入ると、奥さんが真っ青になつて苦しんでいます。玄同さんは手術をして、赤ん坊を1人取り上げ、2人取り上げ、3人取り上げ、4人取り上げしているうちに、とうとう8人も取り上げました。

大変驚いた玄同さんでしたが、何事もなかったような顔をして部屋を出ました。主人は丁寧にお礼を言つて、たくさんのごちそうを出し

てくれました。

二トトリが夜明けを告げるころ、玄同さんはカゴで送られて帰ってきました。でも、不思議でなりません。どちらの方向に向つて、どこかに行つたのか、まったくわからなかったのです。

一月ほどすぎたころ、村の人が「山の奥で8匹の子ギツネが親ギツネと遊んでいるのを見た」というのを聞いた玄同さん。「さては、あの時の赤ん坊はそのキツネたちだったのか」と思いました。

また一月ほど過ぎたある夕方、あの時のお母さんが玄同さんを訪ねて来ました。「先ごろはお世話になりました。少しですがこれをお受け取りください」と言つて包み置いて帰りました。あとで開けてみると小判が5枚入つていたそうです。

資料の原展：『祖母井の民話』芳賀町史報告書第一集

しまたかしの 芳賀の自然

49



ショウジョウトンボ

トンボ目トンボ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所=町内

分布=北海道南部～九州屋久島
 生息地=平地や丘陵地の池沼や水田など
 時期=4～10月
 大きさ=全長41～53mm
 特徴=雄は成熟すると真っ赤になるため、中国の空想の怪物「猩々」の赤い髪に見立てて和名がついた。ヤゴ(幼虫)は水中の藻の間に潜んでいるので、池を清掃して藻を撤去すると全滅してしまう。

編集後記 ● 広報はが5月号

□5月といえば子どもの日。青空にこいのぼりが気持ち良さそうに泳いでいますね。
 □今年のゴールデンウィークはどうしようかな？と考えているうちに、気がつけばゴールデンウィーク間近に。今年こそ計画を立ててどこかに行きたいと思えます。
 皆さんも出掛けられるかと思いますが、青空が見える良い天気だといいですね。

(K)



▲稲毛田

- ◎編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6099 ✉jouchoukouhou@town.haga.tochigi.jp
- ◎発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- ◎芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
- ◎芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



この印刷物は、EPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
 EPA：環境保護印刷推進協議会
 http://www.e3pa.com